

# 鱗 河

阿賀には、懐かしい風景と  
新しいロマンがある

## 第17号

http://www.aganogawa.jp/  
E-mail info@aganogawa.jp

発行 2023 / 7月下旬  
阿賀漁協組合報

発行 阿賀野川漁業協同組合 / 事務所 阿賀町石間 3 8 8 1 - 4 ☎0254-99-1031 FAX1035



- \* 第六十四事業年度通常総代会 全議案 異議なく承認も、カワウ対策に不安の声…
- \* 渡場床固め魚道 抜本的改良を急げ!!
- \* 増殖事業は組合の根幹! 抜本的見直しへ
- \* 《監事の〇〇》 理事会を考える
- \* 「未来自志向で どう組合運営に関わる」
- \* 【監事補選】 新監事に 「古石久志氏 / 新津地区」 当選(無投票)

### "あゝ 故郷への遙かな旅もここでお終いか…"

滞筋が左岸に移り、右岸の魚道は役割を果たしていない。この上流部に阿賀野川の代表的産卵床がある。地域漁民ならず、自然資源の枯渇と言う点でも心配される。これでは、天下の大河が泣く!!。関係機関に早急な対策をお願いしたい。  
(阿賀野川渡場床固魚道風景)

## 阿賀今昔物語

### 横雲橋

田辺修一郎氏提供 4代目の橋

明治8年(1875)10月、全長311m全幅5.4mの木橋として架けられ。大河に雲がたなびく長い橋と形容されたことから「横雲橋」と名付けられた。現在は5代目で、昭和38年5月8日に、国道49号線の改良工事の一環として架け替えられた。(全長905.1m/県道586号線)



あがのがわ環境学舎提供 現在の写真

※文政2年(1829)8月夕刻、馬7頭も一緒に乗った渡し船が、だしの風に煽られて転覆、多くの人々が亡くなりました。これを慰霊するための地藏様が横雲橋のたもと(横越側)に奉られている。

### 閑話休題

## カワウ対策 不条理では…

阿賀野川流域のカワウの繁殖は、上流部から中流部へと棲家を移している。この大きな要因として、ウグイを含む溪流魚の減少が上げられる。関係漁協も、財政的理由もあってか、上流部への稚魚放流を減らしていることも、鵜の移動とリンクする。さて、対策の現況はと言えば、銃猟による駆除と爆竹等による追い払いである。以前は、コロニーにドライアイスの投入や巣の破壊等が主であったが、作業が大変なことと、費用対効果が上がらないことから各漁協も現況の形骸的取組となっている。(二部の地域で「雛」駆除実施)



水あって魚棲まずでは…

しかし、よく考えてみると、漁協は被害者であるのに、駆除活動は漁協任せになっている。一定の助成はあるとしても、被害者が駆除経費の大半を負担していることは些か不条理ではないか。カワウが増えたのは漁協の責任ではない。そもそも保護鳥日本固有種に指定し、駆除を禁止したことが異常繁殖の主たる原因であり、その対策を漁協が主となって行うものではないと思うが、行政がもっと資金面、対策について積極的介入する中で、漁協としての機能を活かして協力する。これが筋道の通った形ではないだろうか。被害者が、その経費の主たるものを負担するのは、本末転倒と言わざるを得ない。  
「月兔追いかのやまこぶな釣しかの川」魚がいてこそ川であり、故郷であると思う。具現的対策を国県市町村は緊急かつ早急に講ずるべきである。

(寄稿・代表理事)

# 第64回 通常総代会開催される

## 役員補欠選挙(監事)は、古石久志氏(新津地区)が、無投票当選となる

令和5年6月25日(日) 五泉市福祉会館 総代総数91名の内、本人出席60名、委任状10名、(内代理1名) 書面議決、1名で、9議案を審議し、全て承認された。



総代会風景 久々のにぎわい (単位:千円)

## 令和4年度収支決算の概要 (1,330千円の黒字)

収 入		
科 目	金 額	摘 要
賦 課 金	5,047	組合員721人×7,000円
特別賦課金	2,386	さけ特別賦課金・増殖協力金
受入行使料	54	やな、小阿賀野川増殖負担金
受入手数料	124	申請手数料
受入補助金	1,218	カワウ・外来魚駆除対策費、阿賀町補助金等
指導事業雑収益	8,619	漁業補償金
稚魚代(さけ・あゆ等)	2,732	新潟県買上、県内水面漁連買上
販売事業(販売・手数料)	159	鮭塩引き、イクラ等
雑収益・その他	608	雑収入、預金利子
協 力 金	108	鮭増殖事業協力金(県内水面漁連)
合 計	20,947	

支 出		
科 目	金 額	摘 要
人 件 費	6,475	役員報酬、職員、臨時職員給料等
旅 費 交 通 費	827	旅費交通費
事 務 費	781	消耗品費、通信費、リース料等
業 務 費	739	会議費、印刷費、連絡員手当等
諸 税 負 担 金	14	収入印紙、河川占用料等
支 払 賦 課 金	385	公租公課、県内水面漁連賦課金
小阿賀野川増殖負担金	70	信濃川漁業協同組合
施 設 費	780	光熱費、施設管理費、自動車保険、整備費等
減 価 償 却 費	199	事務所、ウライ施設、岩谷ふ化場
雑 費	331	事務所、岩谷ふ化場消耗品等
加工材料費等	30	サケ加工労務費、材料費等
繁 殖 保 護 費	5,296	特別監視員手当等、外来魚、カワウ駆除経費 アユ中間育成、サケ飼育経費等
事 業 外 費 用	3,618	漁業補償金地区返還金他
法 人 税 等	180	法人税
予備費、その他	0	事業繰出金他
合 計	19,725	

### ◆予算との比較

(単位:千円)

収入 賦課金7千円増、特別賦課金200千円減、漁場利用協力金50千円減  
漁業補償金1,119千円増、雑収益221千円増

支出 人件費25千円減、旅費交通費27千円増、事務費67千円減、業務費116千円増  
施設費38千円減、繁殖保護費417千円減、事業外費用183千円減

## 令和5年度収支予算の概要 (前年度対比 1,024千円増)

### 【収入】

(単位:千円)

科 目	金 額	摘 要
賦 課 金	4,830	組合員690人×7,000円
特別賦課金	2,386	さけ特別賦課金・増殖協力金
受入行使料等	54	やな、小阿賀野川増殖負担金
受入手数料	132	申請手数料
受入補助金	1,179	カワウ・外来魚駆除対策費、阿賀町補助金等
指導事業雑収益	8,600	漁業補償金
稚魚代(さけ・あゆ等)	2,943	新潟県買上、県内水面漁連買上
販売事業(販売・手数料)	800	生鮭、鮭加工品、イクラ等
雑収益・その他	601	雑収入、預金利子
協 力 金	100	鮭増殖事業協力金・日本海増殖協力金
合 計	21,625	

支出 遊漁券協議会経費負担金 1,160千円増(阿賀野川漁協会員 682名×1,700円)  
(当組合の第五種義務放流分の稚魚代に充てるものとして一人当たり1,700円を阿賀野川水系遊漁券協議会へ納入)

### 【支出】

(単位:千円)

科 目	金 額	摘 要
人 件 費	6,515	役員報酬、職員、臨時職員給料等
旅 費 交 通 費	994	旅費交通費
事 務 費	865	消耗品費、通信費、リース料等
業 務 費	821	会議費、連絡員手当等
諸 税 負 担 金	6	収入印紙・河川占用料・自動車税等
支 払 賦 課 金	368	県内水面漁連賦課金
小阿賀野川増殖負担金	70	信濃川漁業協同組合
遊漁券協議会経費負担金	1,160	阿賀野川水系遊漁券協議会経費負担金
施 設 費	768	光熱費、施設管理費等
減 価 償 却 費	170	事務所、ウライ施設、岩谷ふ化場
雑 費	300	岩谷施設資材費、事業に係る付帯経費等
加工事業直接費	120	加工品職員、工具等労務費他
繁 殖 保 護 費	5,726	特別監視員手当等、外来魚、カワウ駆除経費 アユ中間育成、サケ飼育経費等
事 業 外 費 用	3,551	漁業補償金地区返還金
法 人 税	180	法人税
予備費、その他	11	事業繰出金他
合 計	21,625	

関係漁協と連携しながら早期に取り組んでほしいものです。  
《阿部増殖委員長》

【渡場床固魚道の(安田地区)現状】  
ここ10年ぐらい前から、洪水の度に床固のブロックが流されたり動いたりして、澤筋が左岸側(五泉市)に移り、右岸にある魚道が機能していません。数年前から上流域の組合から改修要望がでており、何度か現地視察や、工事説明会の中でも要望しております。このまま放置できないことは理解されていると認識をしておりますが、なかなか実現しないのが現状です。5月には、アユ・秋にはサケマスが、なかなか産卵のため遡上します。多くの支流や産卵床は、この上流部にあります。

# 急げ!! 床固め魚道改良



## 地区の活動 豊栄地区の取組み

阿賀野川下流でのシジミ漁が今年も始まりました。シジミ漁は、毎週、日・水・金曜の朝5時から7時にかけて9月上旬までの期間行われます。

豊栄地区でのシジミ操業は、漁船8隻で船から専用のジョレン仕掛けを下し砂底を掘り返し、阿賀野川下流を何度も往復して粒ぞろいのシジミを拾い集めます。阿賀野川が産みだすシジミ(大和シジミ)は粒が大きくプリプリ感もありたいへん美味しく、具をたっぷり入れたみそ汁は格別ですし、酒蒸しにしてもいけます。また砂抜き後に冷凍保存することで食べたいときいつでも美味しいシジミ汁が味わえますので是非ご賞味してみてください。

また、「阿賀野川をきれいにする会」会員として、定期的に阿賀野川河川敷船着場周辺の草刈りを実施し、環境美化活動に取り組んでいます。

豊栄地区組合長(連絡員) 小林 信夫



# 増殖委員会報告

## 無事自然産卵を終えたサクラマス

昨年は8月の豪雨により大量の鮎が流失しました。また、新谷川においては春先まで川の濁りが取れず心配しての今年の放流になりました。

鮎の放流につきましては、中間育成の他に山形県産の鮎を綱木川と中ノ沢川に放流を試み、今後の鮎放流の課題に出来たらと思います。



サケの回帰率が年々減少し採卵が厳しいのが現状です。岩谷のふ化場は一般増殖施設を利用したので、管理が大変ですが、最新の注意を払い育成をしたいと思えます。放流には色々な条件がありますが、早めの放流に切り替えて行きたいと思えますので、ご協力宜しくお願いいたします。

増殖委員長 阿部信裕

# 新增殖計画(概要)

ここ数年の鮎の増殖実績は、目標値を大きく下回っています。主な要因として、「①不漁②財政対応から捕獲期間の短縮③遡上時期の見定め」等などが上げられます。

### 【小阿賀野川一括採捕場】

今までの漁期や捕獲期間では、当該年度における遡上時期に適合することは難しいと考え、目標採卵数に達するまで捕獲する。(やむなく対応が出来ない年は、他漁協からの購入や、内水面連合会等との連携から放流量を確保する。)

### 【本流捕獲】

主たる漁場(数か所)における親魚の確保策として、必要な資金手当ても行き、組合全体で増殖を行うという意識を高める。

### 【増殖放流システム】

小阿賀野川一括採捕・本流適地採捕→採卵→移動  
→岩谷ふ化場→検卵→飼育→放流

※ここ数年の放流実績に対して、水産課、並びに阿賀野川関係漁協から、当組合の増殖実績に対して疑義が出されています。ここは真摯に反省し、改善しなければならぬと考えております。厳しい財政状況ではありますが、増殖は、組合運営の根幹であり、最優先しなければなりません。

不足する財源や人材の確保は急務であります。役員一同あらん限りの知恵を絞り難局を乗り越えたいと思えますので、更なる皆様のご協力をお願い申し上げます。

(組合長)

## 監事理事会のあり方に思う

# 最高運営会議の一員であるとの認識の醸成

近年における内水面漁業の実態は、「組合員の減少・財源の枯渇・河川従事者の減少・若者の河川離れ」など劣悪である。この現状の打破は容易にできるものではない。

然らばどうするか。組合員の英知と、それを実行する役員の行動力以外に可能にする術はないと思う。

理事会は、組合の最高運営会議であり、組合の将来に関わる諸事・懸案への建設的対応であり理事の責務は重い。このことを自覚しなければ、地区組合を代表したことにはならない。

### 【指摘点】

- ・理事は、組合の最高経営者会議の一員という自覚を持つ。
- ・理事は、事業内容の把握のための情報収集に努める。
- ・理事は、業務全般に目を配り、適切な指導を行う。
- ・理事は、個人的かつ、地区の問題を持ち込まない。
- ・理事は、組合の情報を他に、軽々に発しない。

※来年は改選の年である。各地区から将来の組合を背負う人材をおくって戴き、大河の金看板(阿賀漁協)を復活させたいと思うのは、私だけだろうか。(担当/佐久間監事)

# 小阿賀野川 サケ稚魚放流体験の お礼状が届きました



令和5年3月3日(金)秋葉区七日町の小阿賀野川で地元新津組合と阿賀小学校4年2組41人、河川工事関係者とサケ稚魚放流を行いました。

このたび、阿賀小学校4年生が収穫したお米と一緒に礼状が届きましたので、礼状の一部を紹介します。

■サケの放流では、くわしくていねいに教えてくださり、ありがとうございました。私は今、サケが減少していることを知って、びっくりしました。私はサケ、サーモンが大好きなのでサケがぐらしやすいかんきょうを作っていきたいです。 小林優心

■放流楽しかったです。サケの赤ちゃんは、もっと小さいかと思いました。すごくかわいかったです。サケのことも知りました。これからは、海、川を大切にしたいです。そのためにかんきょうを大事にしたいです。 本間愛叶

# トピックス ぴかぴかの組合員紹介!!

## 山口文男さん(安田地区)、孫の山口瑠偉(18歳)さんと一緒に新規加入!

おじいちゃんはモクズガニ獲り、孫の瑠偉(18歳)さんは、コイ釣り、魚取りが大好きということもあり、このたび、一緒に安田地区組合に新規加入していただきました。



